4 QUALITY EDUCATION

〈目標 4〉質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、
生涯学習の機会を促進する

子どもを取り巻く社会環境の変化に加え、産業・経済構造の変化や雇用の多様化は、子ども達自ら将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。また、環境の変化により、人間関係構築が困難であったり、意思決定ができない、自己肯定感を持てないなど、変化の激しい時代を「生きる力」や、社会的側面の発達が促進されにくい現状にある。

市民協働で支える～こどものまち「とさっ子タウン」～

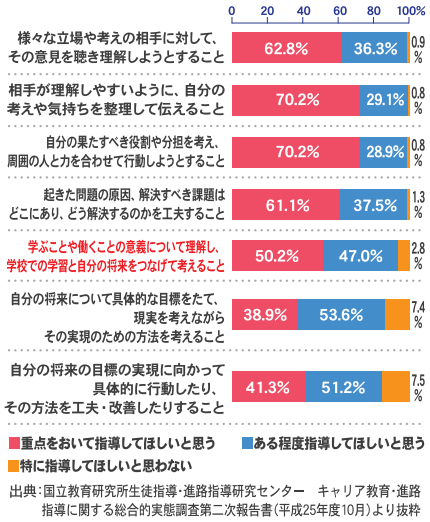
とさっ子タウンは、小学校4年生から中学校3年生までが2日間の職業体験・給与取得・納税・選挙等、まちの運営を通じて社会の仕組みを学ぶ市民協働プロジェクトである。「高知のことを好きになってもらおう」という思いをきっかけに2007年、NPO法人NPO高知市民会議等により企画が動き始めた。とさっ子タウンを開催することが目的ではなく、市民が連携し企画の進め方や方針等を決めていく合意形成のプロセスを大切に組み立てられている。運営方針は時間をかけ実行委員会で話し合われ、「世代を超えたコミュニケーション力を育む」「高知ならではの仕事や文化を楽しみながら社会の仕組みを知ってもらう」「高知のことを好きになってもらう」を3本柱とした。

まちの仕組みは、①仕事を選ぶ、②仕事をする、③銀行で給料をもらう、④税務署で税金を払うというもので、1日目には選挙が行われ、立候補者はマニフェストを提示し、市民投票で市長や議員が選ばれる。子ども市長は高知県知事や高知市長と対談することもある。50以上の協賛企業や専門家等により、約40種類の仕事が体験でき、四国銀行協力の「とさっ子銀行」では、子ども銀行員が給料を支払ったり、貯金を預かったりする。全てを教えなくとも、子どもは自ら効率性を考え、仕事を工夫し始めるという。

初代市長の提案で、タウン内の通貨を地元商店街で使える催しも行われた。子どもの発想や活動が地域に広がり、自然と地域全体がとさっ子タウンをサポートしている。開催資金も約6割が協賛金・寄付金でまかなわれている。とさっ子タウンを通じて子ども達は、仕事の多様性や社会とのつながりを学び、社会の一員としての自覚を高めていく。また、未知の体験に挑戦する勇気とその価値を体得しながら「生きる力」を身に着けていく。この積み重ねにより、子ども達だけではなく実行委員や関係者も共に地域社会の担い手として成長していく。

小学校調査結果の分析

～学校における授業や生活で指導してほしいこと（保護者調査）～



出典：国立教育研究所生徒指導・進路指導研究センター　キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第二次報告書（平成25年度10月）より抜粋

「こどものまち」の様子

箸拳道場でお座敷遊び体験

「起業」をした子ども達

Point

- とさっ子タウン当日の大人の関わりは最低限にして、なるべく子どもに任せる運営の考え方
- 実行委員会の学生ユニットが、プレゼンテーションで協賛企業を獲得する
- ボランティアだった大学生が協賛企業やとさっ子タウン事務局に就職
- とさっ子タウンを経験して高校生になった子ども達が運営側に参加

高知県高知市

高知市は、四国の中南部に位置する高知県の県庁所在地であり、中核市に指定されている。国内では、酒類の消費量が多い都市の一つ。名物にはカツオのたたきとよさこい鳴子踊りなどがある。高知市民の気風とされている要素として、女性は「はちきん（八金：『『男4人分』より強い」とも言われる、勝気な女衆）」、男性は「いごっそう（偉骨相：頑固者。ただし敬意の念も含まれる）」と言われる。

Data

- 人口：336,944人
- 世帯数：153,541
- 面積：308.99km²

［とさっ子タウン］http://tosacco-town.com/